美幌博物館　月刊情報誌

GREEN LETTER
グリーンレター

Vol. 221
2015/02/01

今月の一枚
GREEN COLUMN
01. 外来種になったフクドジョウ
02. 美術のチカラ
03. はじめての出会い

今月の一枚

Photo

「せせらぎ公園のキツネ」

表紙写真・文／町田善康

12 月号のグリーンレターで、八重柏さんも紹介していた『せせらぎ公園』。この公園には、キツネも暮らしています。

ここに住むキツネは、人家の近くに暮らしているにも関わらず、人に馴れていません。森の中で出会っても、人目を避けるように逃げていくのが印象的です。

先日、誰もいない公園のベンチで休憩していると、視線を感じました。辺りを見回してみると、鋭い目つきでキツネが睨んでいるのです。観光地で食べ物をおねだりするキツネ達に見せてあげたい、表情です。

01 GREEN COLUMN
グリーンコラム

外来種になったフクドジョウ

写真・文／町田善康

ヒゲは、3対で6本。体は20cmほどで、細長く、新幹線のようなフォルムが印象的なドジョウの仲間、フクドジョウ。日本では、北海道のみに自然分布しています。美幌町内の川でも普通に見られ、特に川の中・下流域に多く、駒生川や魚無川では、子ども達と魚とりをすれば、必ず出会える身近な魚です。

一方、いつ、どこで産卵し、何歳まで生きているのか？どんなものを食べているのか？その暮らしぶりは、わからないことが多いのです。

最近では、福島県や神奈川県などに移入され、生態系に悪影響を与える外来種として、問題なってきています。なかでも、神奈川県の金目川では、川に暮らす魚のなかでフクドジョウが最も多くなり、生態系を守るための対策が練られています。北海道では、子ども達に人気のフクドジョウも、神奈川県では外来種になり、厄介者として扱われてしまっています。

しかし、前述したとおり、どのような生活をしているのか、わからない魚ですので、対策を練るためにも、自然分布地域との比較調査が必要です。そのため、昨年5月から、神奈川県の方との共同で、美幌町に暮らすフクドジョウの調査を毎月行っています。

極寒の冬でも調査を実施しているのですが、肝心のフクドジョウが極端に少なくなってしまいました。いったいどこに行ってしまったのか…。

身近な魚でも、じっくり調べてみると、次々と疑問が出てきます。今年もこんな疑問を一つ一つ明らかにし、皆さんにお届けすることができれば良いと思っています。まずは、フクドジョウの不思議を明らかにできるよう、頑張りたいと思います。

02 GREEN COLUMN
グリーンコラム

美術のチカラ

写真・文／久山春美

今年は例年になく、雪の日が続いています。博物館はすっぽりと雪に覆われ、休館中の静けさもあってか、まるで大きなかまくらの中で過ごしているようです。

現在、美術展示室では、２月１７日のリニューアルオープンを控え、展示作業の大詰めを迎えています。今回の展示では、初公開のものも含め、５５点の作品を展示する予定です。ジャンルは油絵を中心に、版画や水彩画、彫刻や掛軸も並び、幅広い年代の皆様に楽しんでいただけるのではないかと思います。

選定した作品をズラリと並べて、改めて実感したのは、美術作品は、人間の感性に訴えかける強いチカラをそれぞれ持っているのだなぁ、ということです。収蔵庫でおとなしくしていた絵画達は眠りから覚め、ライトが当たるとさらに輝きを増し、私達を楽しませてくれます。たとえば作品から感じる、喜び、孤独、懐かしさ。すがすがしさ、絶望、生命力。…といっても、「美術はよくわからない」「絵を理解するためには知識がいるのではないか」と思う方は少なくないのではないでしょうか。しかし、美術鑑賞も一種のコミュニケーション。まずは素直な感想を持つことが、作品や作家と近づく第一歩です。生身の人間同士であれば、会う時間が限られていたり、会話につまってしまうこともあるかもしれませんが、美術作品はじっと待っていてくれますのでご安心を。そして気に入った作品があれば、穴のあくほど見つめてみてください。いつしか、作品の方から語りかけてくれるかもしれません。

ふらっと、美術のチカラを浴びにお越しください。作品達も、一人でも多くの皆さんとの出会いを心待ちにしています。

03 GREEN COLUMN
グリーンコラム

はじめての出会い

写真・文／城坂結実

いくつになっても、初めての出会いはあるもので…。昨年秋も終わる頃、博物館の裏にある、みどりの村森林公園でオシャレな模様の虫に出会いました。

そして出会いとは思いがけず、ふいに訪れるもののようで…。ミドリシジミ（蝶）の仲間の卵がカシワの冬芽についていないかどうか、探していた最中の出会いでした。結局、ミドリシジミの卵は見つかりませんでしたが、初めて出会ったその虫は、首が長く、黄褐色に黒点が散りばめられた模様をしていました。

初めての出会いに興奮し、夢中になってその姿を写真を撮り、その後、図鑑から必死に相手の名を探しました。そして知ったその名は、ゴマダラオトシブミ。オシャレな黒点模様は、まさにゴマダラ！眼（複眼）がどこにあるのか、迷ってしまうくらいです。

ゴマダラオトシブミは、オトシブミの仲間で、メスは植物の葉を巻いてゆりかごをつくり、その中に卵を産みます。みどりの村森林公園では、頻繁にシラカバの葉が巻かれて、落ちているのを目にすることができます。これは、普通のオトシブミの仕業。ゴマダラオトシブミは、ナラ類やクリの葉を巻くようです。

写真は、カシワの葉の上で、物思いにふけるゴマダラオトシブミ（本当に物思いにふけっているかどうかは、わかりませんが）。秋も深まる森の中で、私もゴマダラオトシブミのように、物静かに思いを馳せてみたいと思いました。

【発行】
美幌博物館

【デザイン・編集】
城坂結実

【お問い合せ先】
美幌博物館
北海道網走郡美幌町字みどり 253 - 4
Tel ／ 0152 (72) 2160　Fax ／ 0152（72）2162
mail ／ museum@town.bihoro.hokkaido.jp
http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/museum/index.html
無断掲載・転載を禁ずる

平成 26 年 11 月 4 日（火）～平成 27 年 2 月 16 日（月）
暖房改修工事のために、閉館しております。
みなさまには、大変ご迷惑をおかけしますが、よろしくお願いします。

学芸員補のつぶやき

博物館の工事による休館も、もうすぐ終わり。仕事を休んでいたわけではないのですが、なんだか冬眠から目覚めるような気持ちです。また新たな気持ちで、みなさんに楽しんでもらえるよう、博物館一同、がんばりたいと思います。そして今年も、美幌博物館をよろしくお願いします。（城坂）